



発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通2-13
TEL 025(223)6381

人の役に立つということ ―マスター・ヨードを目指して―

長岡赤十字病院 消化器外科部長 谷 達夫



私の外科生活は36年目になり、辛かったことも数多くありましたが、その一つひとつが今では自分の血肉となっており、外科医としてのやりがいはその苦勞を凌駕して余りあるものであることを実感しています。

外科医でなければ得られない喜びは、技術を磨き続けられることです。経験と知識をひとつひとつ積み重ねて技術を高めることで自分自身の成長を確実に実感でき、それが利他につながる醍醐味です。これは外科医ならではの醍醐味です。腹腔鏡下手術の黎明期からロボット支援下手術普及の現在まで、その変革の時代に間接的に関与することは本心に満ちた経験でした。低侵襲を目指して試行錯誤を重ねながら標準手術を確立、手術機器の進歩でさ

らに精緻な手術が可能となる。この循環は今後も続いていきます。調和とHarmony
外科医療は手術だけではなく、患者さんに調和する外科的・内科的治療法を選択しています。創造性、好奇心、探究心、畏敬の念、共感力だけでなく違和感を感じ、共感力も発揮して、その調和のレベルを高めていくことが出来ます。

チーム医療
外科医は最初から包丁を握らせてもらえるのではなく、仕込みや掃除といった周辺の仕事をしながら親方の表情や仕事、会話、沈黙の間合いを感じ、その技術や人間性を吸収していきます。これは正統的周辺参加と呼ばれる、教育のために用意されたプログラムでは代替できない学びの源泉です。この周辺の学習が最大効率となるために必要なのは、チーム個々人の高い専門性やスキルではなく、互いが信頼し合える関係性にあります。社会的感受性と豊かな共同感覚に満ちたチームで働けるワークライフバランス

私の医師1年目、8月土曜の午前、先輩から、「今日の午後から明日まで夏休み！」と言われ、ラッキー、と思ったのは昔日の話。チーム医療も進化し夜間休日には完全当番制で、家族と過ごす、マラソン、登山、ライブ、ゴルフ、庭仕事、ゴロゴロ、皆がそれぞれ自分の時間を楽しんでいて。私自身の長期休暇は、海をみながら読書とジム、ゆっくり過ごして心の平穏を味わっています。

マスター・ヨード
マスター・ウォーズは、Z世代には馴染みのない映画かもしれない。ジョージ・ルーカス監督によって1977年に生み出された50年にわたってシリーズ化、壮大なストーリー、革新的な映像、ジョン・ウィリアムズの音楽で多くのファンを魅惑し続けた。ジェダイは銀河系の平和と正義を守る守護者たちで、厳しい訓練を受けて神秘的なエネルギー「フォース」を操り、光の剣「ライトセーバー」を武器に戦います。そのジェダイを指導するグランド・マスターであるヨーダは、身長66cm、緑色の肌と横に尖った耳を持つ小柄な老人ですが、誰よりも深い知恵と洞察力を持ち未来を見通す力に長け、かつ最強で、ジェダイたちをあるべき方向へ導きました。外科医も厳しい訓練を積んで一人前になっていきま

す。深く広い知識と想像力、共感性、思慮深さをもつてメスを操り、次世代を育てていく外科のグランド・マスターが私の理想です。

外科の魅力

消化器外科医という 素晴らしい生き方

長岡中央総合病院 外科部長 牧野 成人



学生時代に見たドラマで天才外科医馬江太郎が言った「この手術がしたい理由は一つ、難しい手術だから」。外科医を目指すのにその一言で十分だった時代、それから30年

が経ち、まさか外科の魅力が伝えないうけない時代が来るとは思わなかった。昔からの外科のステレオタイプなイメージはこんな感じでしょう。偏屈な先輩たちのもとで長く厳しい修行に耐え、一子相伝の開腹手術をマスターし一人前になるも視力・体力の低下であつというまにピークは過ぎ、気が付けばN世代はゆとりとZ世代とジェミニを駆使し効率的に手術をマスター、手術室が遠のいたベテランは「オレの時代は」とぼやく。

「休みは少なく、修行は長く、ピークは短い」果たしてそれは

真実なのか？31年目の消化器外科医はすでに答えを知っている。

若い頃はみんなアム車、バイク、映画、ロック、ファッション、スキー、サーフィン、もちろんコンも、全てに興味があり遊びが人生の中心だった。やがて年を取り1つずつ興味を失っていき、手術だけは全く飽きず、ますますのめりこむ。それは外科手術の予想もしなかった革新的進歩にある。

開腹による癌手術の長い時代は2000年代初頭に出現した腹腔鏡手術が幕巻、そのテクニカルな次世代手術に心酔、キズが小さい達人手術と思いきや緻密な手術映像で新しい解剖理解が生まれ、一子相伝、門外不出だった技術が動画により全国に伝わる。すると大学の偉い肩書

外科医の権利と責任

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野(第一外科)
助教・総括医 中野 雅人



「取れない理由ではない理由でなく、取れる理由を考へない。取れると判断する権利は外科医にしかないのだから」

20年以上前、当時の指導医であった消化器外科医の言葉である。手術適応の相談を受けた際、リスクの大きさにためらうことがある。腫瘍が大きい、重要臓器・血管に近接している、併存疾患が重篤である――つい「インオペ」と口にしなくなる場面である。そこで踏み止まり、「この層からアプローチできないか」「別の展開で取れないか」と試行錯誤し、技術的に切除できる理由を考え抜きなさい――手術で取れるかどうかを判断できるのは、実際に執刀する外科医にしかないのだから、という教えた。

もちろん、やみくもに手術で取りに行くべきという話ではない。技術的な切除可能性を検討した上で、全身状態や併存疾患から手術適応そのものを厳格に評価し、他治療との治療成績を比較し、その患者にとって最も有効な治療法をトータルで判断することが重要である。

乳腺外科の魅力

新潟県立がんセンター
新潟病院 乳腺外科医長 土田 純子



乳腺外科の魅力は、その守備範囲の広さにあります。診断、手術療法、薬物療法、遺伝医療、ゲノム医療、緩和ケアまで幅広い分野を担い、患者さん一人ひとりの病状や価値観に応じた医療を提供しています。外科医ではありませんが、実際には手術以外の診療に携わる時間の方が長いかもしれません。私は学生実習で縫合や皮膚切開を経験したことをきっかけに、「自分の手で病気を治す外科医になりたい」と考えるようになり、一方、学生時代に決まっていた学費で乳腺外科を選択するまで、その仕事の実感をほとんど知りませんでした。実習中、終末期乳癌患者さんの搬送に医師の同乗が必要となり、学生だった私も同行させていただく機会がありました。当時の私は、外科医といえ

ば手術をする医師というイメージが持てていませんでした。しかし、乳腺外科医が人生の最終段階まで寄り添う姿を目の当たりにし、乳腺外科は乳癌患者さんを一貫して診療する科なんだと深く感銘を受けました。診断から手術、術後の経過観察を経て治療を終えられる乳癌患者さんがいる一方で、再発や転移と闘う患者さんも少なくありません。外科と内科の垣根なく、生涯にわたって寄り添うことができる点こそ、乳腺外科ならではの大きな魅力であると感じています。

方など、その歩み方はさまざまであり、自分に合ったロールモデルを見つけやすい分野でもあります。私自身も昨年度まで、夫の関西での国内留学に帯同し、兵庫医科大学で2年間研鑽を積み重ねていただきました。見知らぬ土地で子育てと仕事を両立する日々でしたが、それまでに新潟で培ってきた経験を生かしながら、新たな知識や診療

やっぱり消化器外科は“カッコいい”

国立がん研究センター 東病院 大腸外科 番場 悠太



もともと私は、消化器外科医になろうと決まっていたわけではなく、むしろ最初は内科で働きたいと考えていました。でも、初期研修医の時に、研修先である長岡中央総合病院の外科をローテーションした際、手術に真剣に向き合う外科医の姿や、チームで患者さんを支える姿を間近で見ることが、大きなきっかけとなりました。術野に集中し、一つひとつの操作に責任を持ちながら手術を進める姿は、とても印象的で、純粋に「カッコいい」と感じたことを今でも覚えています。また、消化器外科は手術だけでなく、術前診断、治療方針の検討、術後管理、術後のフォローまで、幅広く患者さんに関わることができ

長岡中央総合病院 外科 廣井 颯

外科(系)から外科へ



医師7年目、外科医5年目の廣井颯と申します。この度は「外科の魅力」と題して執筆の機会をいただき、誠にありがとうございます。大変稚拙な文章となりますが、何卒ご容赦いただき、率直な意見を述べさせていただきます。私は2020年に群馬大学を卒業しました。学生実習に廻り

消化器外科の幅広い魅力

済生会新潟県中央基幹病院 消化器・一般外科 幡本 詩織



か。手術治療は、かなり直接的に疾患や病態に対してアプローチすることができ、治療の方法です。自分の手で大きな変化をもたらすことができる治療を行う、ということ。自分自身が「手術でいい」と思っている。手術治療は、かなり直接的に疾患や病態に対してアプローチすることができ、治療の方法です。自分の手で大きな変化をもたらすことができる治療を行う、ということ。自分自身が「手術でいい」と思っている。

現在、医局のご厚意により、国立がん研究センター東病院大腸外科へ国内留学させていただいております。日々刺激に満ちた環境で学ばせていただく中で、大腸外科の奥深さと魅力を感じて実感しています。特に、術前診断から治療戦略の立案、実際の手術に至るまで、一つひとつの過程が丁寧な検討されており、毎日が学びの連続です。患者さんごとに病態や背景は異なります。同じ疾患であっても治療方針は、様々であり、それぞれの中で、個々の患者さんにとって最善の治療を考え、実践していくことに、外科医としての面

科系に行きたいのだけど、県内の病院事情が全くわからない。どこがいいかな?」「外科系なら長中(長岡中央総合病院)一択だろう。無謀とも言える長中単願で突入した結果、無事にマッチングし、長中の初期研修を開始しました。1年目の5月に消化器外科をローテーションしましたが、その1ヶ月が私にとっての転機となりました。まず、手術が速く美しく、定時には終わっている。何よりも外科医が楽しそうに手術をしている。衝撃でした。外科研修が終わった頃には、「外科(系)」「志望から

喜びの一つです。さらに、食事を摂れると退院することができ、ご自宅で過ごしてもらうことも可能になります。たとえ寿命は延びなくても、食事を摂れること、自宅へ帰れることを率直に喜んでくださる姿を見ると、少しでも最期の時間を充実したものにしてお手伝いのできたかな、とやりがいを感じます。悪性腫瘍に対する薬物療法の進歩や、それによりこれまで手術が可能な場合があつたポット手術の時代を経て口と、続々と新たな治療が生まれる面白さもあり、今後もさらなる進歩があります。面白い領域になっていくのではないのでしょうか。

外科専攻医をスタートして

新潟県立新発田病院 外科 車田 千晶



私は令和6年に新潟大学を卒業し、現在は県立新発田病院で外科専攻医1年目として勤務しています。私が消化器外科を志すきっかけとなったのは、初期研修でした。消化器疾患や悪性腫瘍に興味をもち、自らの技術で患者さんを治療できるという点に魅力を感じ、消化器外科を専攻することに決めました。外科の最大の魅力は、やはりその技術です。消化器外科領域において腹腔鏡下手術が広く普及しており、さらに最近ではロボット支援手術の導入も進んできました。近年発展したこれらの

膈の位置、肋骨の開き方や骨盤のつき方、血管の破格など、その人にとってベストの手術とは実は少しずつ違っています。悪性腫瘍に限らず言えば、進行度にも人それぞれ違いがあります。メスを入れ、お腹の中を治すこと、術前画像からある程度の予想をつけ、実際に目で見て答え合わせをすること、手術という形で表現することは外科医にしかできません。もちろんその他にも外科の魅力は多々あります。が、文字数の関係でこの程度に

検討し、外科チーム全体で患者さんを支えます。このようなチーム体制のもとで診療に携わることで、多くのことを学びながら着実に経験を積み重ねることができ、専攻医として一人でも判断することが難しい場合にも、外科チームの先生方から丁寧なご指導いただきながら診療に取り組みすることができている。昨今進路を決める際は、体力面や女性としてのキャリア形成など、将来に対する不安もありました。しかし、医局の先輩方や全国で活躍されている女性外科医の姿を拝見し、自分が最もやりたいと思える道に進むことを決めました。手術を受けた患者さんが元気に退院される姿を見た時には、大きなやりがいと達成感を感じます。現在では自分の未熟さを痛感する日々ではありますが、充実した毎日を選び、昨今この道を選んだ本当によかったと実感しています。

編集後記

今号は消化器内科、婦人科に続く「診療科の魅力」シリーズ第3弾としての外科特集です。酸いも甘いも知り尽くしたパティランから、これからの業界を担う若手まで、8名の外科医に思いを語っていただきました。外科医を取り巻く環境は大きく変化し、かつての「きつい、長い、休めない」といったイメージも変わりつつあるようです。一方で、自らの知識と技術を磨き、その手で患者さんを治すというスタンスは、世代を超えて変わりません。8名それぞれが、言葉からは、外科への熱い思いがひしひしと伝わってきます。世代や立場によって異なる「外科の魅力」。皆さんはどのよう

(竹之内)